

2026年度

| 学年                 | 教科  | 科目   | コース  | 単位 | 担当者 |
|--------------------|---|--|------|----|-----|
| 3                  | 国語  | 論理国語   | 選抜文系 | 3  | 平山  |
| 教科書                | 『論理国語』(数研出版)  |  |      |    |     |
| 副教材                | 『論理国語 準拠ワーク』(数研出版), 『2027共通テスト対策問題集Vol.4国語現代文』(河合出版) 『入試頻出漢字+現代文重要語彙TOP2500 三訂版』(いっずな書店), 『イラストとネットワーキングで覚える 現代文単語 げんたん 改訂版』(いっずな書店)  |  |      |    |     |
| 評価基準               | <p>観点① 知識・技能</p> <p>語彙力・文章構成の理解(文や文章の効果的な組み立てや接続の仕方の理解)</p> <p>情報の扱い方を理解する。(情報の重要度による整理、推論)</p>   |  |      |    |     |
|                    | <p>観点② 思考力・判断力・表現力</p> <p>文章を的確に理解し、自分の考えを深め、他者に伝えられる表現力を養う。</p>  |  |      |    |     |
|                    | <p>観点③ 主体的に学習に取り組む態度</p> <p>授業を聞く。与えられた課題、自分で発見した課題に取り組む。他者と協働して問題解決を図ろうとする。成果物を提出する。</p>   |  |      |    |     |
| 考査・評価方法            | <p>1学期中間・1学期期末・2学期中間・2学期期末の計4回実施</p> <p>上記考査は全て、観点①50点+観点②50点の100点満点で実施する。</p> <p>各学期、その時点までの通算を5段階評定で表記する</p> <p>1・2学期: 観点①(中間50+期末50) + 観点②(中間50+期末50) + 観点③ 20</p>                                     |  |      |    |     |
| 授業のねらい・進め方・学習アドバイス | <ul style="list-style-type: none"> <li>・自力で文章を正しく読解する力を養っていくことを主眼とする。</li> <li>・教科書を主に用いて、様々な文章を読み、教養や知識を深めていく。</li> <li>・漢字は考査と同じ範囲を中テストとして実施する。継続的に学習する。</li> <li>・隔週で『評論速読トレーニング2000』を実施する。</li> </ul> |  |      |    |     |
| 家庭学習               | 学習内容と進め方  | 漢字や現代文単語を繰り返し覚える。演習問題を解いた後の復習を適宜行うこと。          |      |    |     |
|                    | 学習の目安時間・分量  | 単語は隙間時間を使って覚えること。文章問題の復習については時間がかかっても必ず全問行うこと。 |      |    |     |
|                    | 学習状況の確認方法   | 定期考査前後で確認する。詳細は授業内で指示する。                       |      |    |     |
|                    | 成績評価との関係  | 観点③の評価に加える                                     |      |    |     |
| 図書資料の活用等・探究へのつながり  | 各自新書を読む機会を設けるようにすること。   |  |      |    |     |

授業の計画

| 学期 | 月  | 教材                  | 内容                       |
|----|----|---------------------|--------------------------|
| 1  | 4  | 1「文化が違う」とは何を意味するのか? | 論理的文章の理解                 |
|    | 5  | 問題演習                |                          |
|    |    | 中間考査                | げんたんp8~p117 TOP2500全範囲   |
|    | 6  | 2「である」ことと「する」こと     | 論理的文章の理解                 |
| 2  | 7  | 問題演習                |                          |
|    |    | 期末考査                | げんたんp118~p210 TOP2500全範囲 |
|    | 9  | 3 人はなぜ働かなくてはならないのか  | 論理的文章の理解                 |
|    | 10 | 問題演習                |                          |
| 3  |    | 中間考査                | TOP2500全範囲 げんたん全範囲       |
|    | 11 | 4 顔の所有              | 論理的文章の理解                 |
|    |    | 問題演習                |                          |
|    | 12 | 期末考査                | TOP2500全範囲 げんたん全範囲       |

2026年度

授業の計画

| 学年                | 教科   | 科目         | コース | 単位 | 担当者 | 学期 | 月 | 教材  | 内容       |
|-------------------|--|------------|-----|----|-----|----|---|---|----------|
| 3                 | 国語   | 文学         | 選抜  | 2  | 小平  | 1  |   |   |          |
| 教科書               | 数研   |            |     |    |     |    |   |   |          |
| 副教材               |  |            |     |    |     |    |   |   |          |
| 評価基準              | 観点① 知識・技能  |            |     |    |     |    |   | <ul style="list-style-type: none"> <li>梶井基次郎「檸檬」</li> <li>授業者作成のオリジナル近現代文学史プリント</li> <li>松浦寿輝、坂口安吾、今福龍太、坪内稔典など入試問題に出題された文芸批評（明治大、早大、国公立など）</li> </ul> | 文学的文章の読解 |
|                   | 語彙、文学史   |            |     |    |     |    |   |   |          |
|                   | 観点② 思考力・判断力・表現力<br>心情理解、象徴表現の理解  |            |     |    |     |    |   |   |          |
| 考査                | 観点③ 主体的に学習に取り組む態度<br>小テストの取り組み   |            |     |    |     |    |   |   |          |
|                   | 1学期中間・1学期期末・2学期中間・2学期期末・学年末の計5回実施<br>上記考査は全て、観点①50点＋観点②50点の100点満点で実施する。  |            |     |    |     |    |   |   |          |
| 評価                | 各学期、その時点までの通算を5段階評定で表記する<br>1・2学期: 観点①(中間50+期末50) + 観点②(中間50+期末50) + 観点③ 20<br>3学期: 観点①学年末50 + 観点②学年末50 + 観点③ 10 |            |     |    |     | 2  |   |   |          |
| テスト・評価の内訳         | 観点①  |            |     |    |     |    |   | 入試問題演習  | 入試問題演習   |
|                   | 語彙、文学史   |            |     |    |     |    |   |   |          |
|                   | 観点②<br>表現  |            |     |    |     |    |   |   |          |
| 授業のねらい・進め方・注意点    | 観点③<br>小テスト  |            |     |    |     |    |   |   |          |
|                   | 文学を愛する心の醸成   |            |     |    |     |    |   |   |          |
| 家庭学習              | 学習内容と進め方   | 各自入試問題を解く  |     |    |     | 3  |   |   |          |
|                   | 学習の目安時間・分量   | 週に一題       |     |    |     |    |   |   |          |
|                   | 学習状況の確認方法  | ノートに解いて提出  |     |    |     |    |   |   |          |
|                   | 成績評価との関係   | 観点③の評価に加える |     |    |     |    |   |   |          |
| 図書資料の活用等・探究へのつながり |  |            |     |    |     |    |   |   |          |

2026年度

| 学年                | 教科   | 科目  | コース  | 単位 | 担当者 |
|-------------------|--|---|------|----|-----|
| 3                 | 国語   | 古典探究  | 選抜文系 | 5  | 二瓶  |
| 教科書               | 『古典探究』(数研出版) ★ノート作りに必要なので、はさみ・のりも持参。   |   |      |    |     |
| 副教材               | ①『古典探究 準拠ワーク』(数研出版) ②『古文単語Key&Point』(いっずな書店)<br>③『基本セミナー 漢文入門』(浜島書店) ④『2027共通テスト 古典』(進研学参)<br>⑤『古典の手引き』(いっずな書店) ⑥『古典の手引き 定着ノート』(いっずな書店)  |   |      |    |     |
| 評価基準              | 観点① 知識・技能<br>古文：単語・文法・古典常識を身につけ、内容理解につなげる<br>漢文：単語・句法・歴史的背景を身につけ、内容理解につなげる   |   |      |    |     |
|                   | 観点② 思考力・判断力・表現力<br>主語や単語の意味が分かり、登場人物などの心情や作品の主題を理解する<br>作品がその後の文学に与えた影響を考える  |   |      |    |     |
|                   | 観点③ 主体的に学習に取り組む態度<br>予習は必ず自力で行い、その成果がノートに反映されていること。<br>ワークは自力で解き、解説を読み理解することで読解力の定着をはかること。<br>話し合いなどでは積極的に建設的な意見を述べ、共に学ぶ意義を認め合うこと。   |   |      |    |     |
| 考査                | 1学期中間・1学期期末・2学期中間・2学期期末の計4回実施<br>上記考査は全て、観点①50点+観点②50点の100点満点で実施する。  |   |      |    |     |
| 評価                | 各学期、その時点までの通算を5段階評定で表記する<br>1・2学期: 観点①(中間50+期末50) + 観点②(中間50+期末50) + 観点③ 20  |   |      |    |     |
| テスト・評価の内訳         | 観点① (50点)  | 古典単語や助動詞、句形や訓点等の知識  |      |    |     |
|                   | 観点② (50点)  | 演習問題・記述式 (内容理解、主題の把握、傍線部・文の現代語訳等)   |      |    |     |
|                   | 観点③ (20点)  | (1)授業姿勢(5点) (2)ノート(5点) (3)ワーク(5点)<br>(4)1学期G.W.明けテスト・2学期夏期休暇明けテスト(5点)                                       |      |    |     |
| 授業のねらい・進め方・注意点    | 古今東西、古典が読み継がれて来たのには理由があり、外国からも敬意を表される作品が本国にはいくつもある。古典をある程度早く、また正確に読み進めていくためには語句の意味や文法、句法など基礎力の定着が欠かせない。また古典の読解には当時の文化や習俗を知る必要がある。それらの知識を総動員して古典を味わう力を養うことで、これからの人生における助けの一つ増やすことがねらいである。 |   |      |    |     |
| 家庭学習              | 学習内容と進め方   | 「授業の計画」に明示されている単元は予習が必要。自力で解くことで基礎力の定着を図る。分からない所は分からない事を明示しておくことで、授業の受け方にめりはりがつく。ネットを参照し訳を写して書くことは時間の無駄である。 |      |    |     |
|                   | 学習の目安時間・分量   | ①は定期考査に向けて計画的に勉強すること。②③④は内容把握を1学期には完璧に終えること。⑤は共テ利用の人は夏休みから進捗を決めて取り組むこと。分からない問題は2学期以降質問を受け付ける。⑥は予習の際に活用すること。 |      |    |     |
|                   | 学習状況の確認方法  | ①②③④定期考査に出題する。<br>⑤は1学期期末考査後に提出。  |      |    |     |
|                   | 成績評価との関係   | ①②③④の定期考査の内容は観点①・観点②に入れる。<br>⑤の提出物類は観点③に入れる。  |      |    |     |
| 図書資料の活用等・探究へのつながり | 1学期の間に源氏物語について解説してある本や漫画を読み通す。   |   |      |    |     |

授業の計画

| 学期 | 月 | 教材  | 内容   |             |
|----|---|---|--|-------------|
| 1  |   | 【G.W.明けテスト範囲】 ⑧単語No.1-No.330全て(意味の四択問題)<br>⑨p.50-p.55 p.60-p.63(ワークのとおりに出題) ⑩助動詞全て    |  |             |
|    | 4 | 古(1)『古今和歌集』 仮名序やまと歌は<br>古(2)『大鏡』 貫之と躬恒  | 『古今和歌集』について  |             |
|    | 5 | 古(3)『大鏡』 村上天皇と安子<br>古(4)『枕草子』 宣耀殿の女御(プリント)<br>漢(1)-(4)授業中に指示                          | 後宮について<br>入内する姫に求められる教養<br>初見で解く                           |             |
|    | 6 | 古(5)『枕草子』 宮に初めて参りたるころ<br>古(6)『枕草子』 大納言殿参り給ひて<br>古(7)『枕草子』 二月つごもりごろに<br>漢(5)-(8)授業中に指示 | 定子サロンの華やかさとその実態<br>初見で解く                                   |             |
|    | 7 | 【期末考査】 ④授業で実施した範囲 *初見問題あり<br>⑧単語No.1-No.330全て(意味の四択問題) ⑨20累加-22抑揚                     |  |             |
|    | 8 | 【夏期休暇明けテスト】 ⑧⑨⑩1冊まるごと(⑩p.330-古文常識も含む)<br>『源氏物語』のおおまかなストーリーを追えること(選択問題の予定)             |  |             |
|    | 2 | 9   | 古(8)『源氏物語』 小柴垣のもと<br>古(9)『源氏物語』 車争ひ                        | 『源氏物語』を味わう  |
|    |   | 10  | 古(10)『源氏物語』 母子の別離(プリント)<br>漢(9)『史記』 四面楚歌<br>漢(10)『史記』 項王自刎 | 『史記』の名場面を読む |
| 11 |   | 古(11)『源氏物語』 明石の姫君入内<br>古(12)『源氏物語』 紫の上の苦惱<br>古(13)『源氏物語』 紫の上の死<br>漢(11)『史記』 刎頸の交はり    | 『源氏物語』を味わう<br>『史記』の名場面を読む                                  |             |
| 12 |   | 【期末考査】 ⑧⑨⑩1冊まるごと *初見問題あり  |  |             |
| 3  |   |   |  |             |

2026年度

| 学年                | 教科  | 科目                                   | コース   | 単位 | 担当者 |
|-------------------|---|--------------------------------------|-------|----|-----|
| 3                 | 地歴  | 日本史発展                                | 選抜 文系 | 5  | 小倉  |
| 教科書               | 山川出版 詳説日本史探究  |                                      |       |    |     |
| 副教材               | 帝国書院 日本史通覧<br>啓隆社 日本史重要語句 Check List  |                                      |       |    |     |
| 評価基準              | 観点① 知識・技能<br>歴史事象や歴史用語を時代の流れに即して習得することができるか。  |                                      |       |    |     |
|                   | 観点② 思考力・判断力・表現力<br>歴史事象の理由を探究することができるか。   |                                      |       |    |     |
|                   | 観点③ 主体的に学習に取り組む態度<br>自ら進んで授業動画や副教材を進めることができるか。<br>自ら進んで課題に取り組んでいるか。   |                                      |       |    |     |
| 考査                | 1学期中間・1学期期末・2学期中間・2学期期末・学年末の計5回実施<br>上記考査は全て、観点①50点＋観点②50点の100点満点で実施する。   |                                      |       |    |     |
| 評価                | 各学期、その時点までの通算を5段階評定で表記する<br>1・2学期: 観点①(中間50+期末50) + 観点②(中間50+期末50) + 観点③ 20<br>3学期: 観点① 学年末50% + 観点② 学年末5% + 観点③ 10       |                                      |       |    |     |
| テスト・評価の内訳         | 観点①<br>授業内容を中心に教科書、チェックリスト、プリントから出題   |                                      |       |    |     |
|                   | 観点②<br>授業内容を中心に教科書、プリントから出題   |                                      |       |    |     |
|                   | 観点③<br>授業末課題と授業動画取り組み状況の提出  |                                      |       |    |     |
| 授業のねらい・進め方・注意点    | 世界の中の日本を意識し、他国との関連の中から動く歴史であったり、日本古来の特徴を他国と比較したりしながら展開していく。歴史事象を単なる暗記事項として扱わず、エピソードや流れの中での理由や展望とともに述べながら、歴史を語る生徒の育成に努めたい。 |                                      |       |    |     |
| 家庭学習              | 学習内容と進め方  | 日本史重要語句チェックリストを進める。日本史講義動画の視聴を進めていく。 |       |    |     |
|                   | 学習の目安時間・分量  | 1日1～2時間程度                            |       |    |     |
|                   | 学習状況の確認方法   | 定期考査の得点具合、および提出物                     |       |    |     |
| 成績評価との関係          | チェックリストの出来具合は観点1に、日本史講義動画の視聴は提出物として観点3に反映される。   |                                      |       |    |     |
| 図書資料の活用等・探究へのつながり | 必要に応じて各自で活用する。  |                                      |       |    |     |

授業の計画

| 学期 | 月  | 教材          | 内容   |
|----|----|-------------|--|
| 1  | 4  | 教科書<br>プリント | 中間考査まで：飛鳥文化～桃山文化<br>いわゆる「日本らしい」という文化を古代・中世の文化史から学ぶ。                |
|    | 6  | 教科書<br>プリント | 期末考査まで：元禄文化～戦後文化<br>日本の文化が形成されつつも近代に入って西洋化と競合していく様を学ぶ。             |
|    | 8  | 教科書<br>プリント | 夏期講習：江戸後期の復習<br>2学期に近代史の復習をするにあたっての助走として幕末期の復習。                    |
| 2  | 9  | 教科書<br>プリント | 中間考査まで：明治維新～大正時代<br>2年次の1周目では踏まえられなかった細かい事象まで踏み込みんだ2周目の日本史を展開していく。 |
|    | 11 | 教科書<br>プリント | 期末考査まで：昭和・平成<br>主に外交関係や経済史を中心としながら、戦後史も扱って細かに復習をしていく。              |
|    |    |             |  |

2026年度

| 学年                | 教科   | 科目   | コース   | 単位 | 担当者 |
|-------------------|--|--|-------|----|-----|
| 3                 | 地歴   | 世界史発展  | 選抜 文系 | 5  | 内田優 |
| 教科書               | 『詳説世界史』(山川出版)  |  |       |    |     |
| 副教材               | 山川 詳説世界史図録<br>世界史探究 詳説世界史 授業用 整理ノート  |  |       |    |     |
| 評価基準              | <b>観点① 知識・技能</b><br>世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる諸事象について、地理的条件や日本の歴史と関連付けながら理解しているとともに、諸資料から世界の歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。          |  |       |    |     |
|                   | <b>観点② 思考力・判断力・表現力</b><br>世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる事象の意味や意義、特色などを、多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や、効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。 |  |       |    |     |
|                   | <b>観点③ 主体的に学習に取り組む態度</b><br>よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとする態度を養うとともに、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。                       |  |       |    |     |
| 考查                | 1学期中間・1学期期末・2学期中間・2学期期末・学年末の計5回実施<br>上記考查は全て、観点①50点+観点②50点の100点満点で実施する。  |  |       |    |     |
| 評価                | 各学期、その時点までの通算を5段階評定で表記する<br>1・2学期: 観点①(中間50+期末50) + 観点②(中間50+期末50) + 観点③ 20<br>3学期: 観点①学年末50 + 観点②学年末50 + 観点③ 10                       |  |       |    |     |
| テスト・評価の内訳         | <b>観点①</b><br>授業で学んだ歴史的出来事について理解ができているか。   |  |       |    |     |
|                   | <b>観点②</b><br>資料・史料やデータなどから複数の根拠をもって問いに答えることができる。  |  |       |    |     |
|                   | <b>観点③</b><br>授業への姿勢や協同作業など自ら前向きに動くことができる。   |  |       |    |     |
| 授業のねらい・進め方・注意点    | 近世以降の世界史の基礎・基本的な事項を学ぶ。<br>また、暗記ではなく、歴史に関する知識を深め、異なる地域を比較・関連付けて考察する力をつける。   |  |       |    |     |
| 家庭学習              | 学習内容と進め方   | 大学入試問題の演習と解説プレゼン資料の作成を毎日進める<br>連休などにスタディサブリの動画を配信するので連休は自学自習 |       |    |     |
|                   | 学習の目安時間・分量   | 1日20分。問題演習やプレゼン資料作成、動画視聴や復習など。                               |       |    |     |
|                   | 学習状況の確認方法  | プレゼンの内容で理解度を確認。動画については視聴しているかどうか確認。                          |       |    |     |
|                   | 成績評価との関係   | 観点③の評価に加える。プレゼン内容や動画視聴は確認テストまで行っているかどうか。                     |       |    |     |
| 図書資料の活用等・探究へのつながり | 分からないことや調べたいことがあれば適宜。  |  |       |    |     |

授業の計画

| 学期   | 月    | 教材  | 内容   |
|------|------|-----|--|
| 1    | 4    | 教科書 | 第15章 帝国主義とアジアの民族運動<br><br>第16章 第一次世界大戦と世界の変容<br><br>第17章 第二次世界大戦と新しい国際秩序の形成<br><br>第18章 冷戦と第三世界の台頭<br><br>第19章 冷戦の終結と今日の世界 |
|      |      | 副教材 |  |
|      | 中間考査 | 5   |  |
|      |      | 5   |  |
|      |      | 6   |  |
|      | 期末考査 | 7   |  |
|      |      |     |  |
| 2    | 9    | 教科書 | 復習・演習<br><br><br><br>復習・演習   |
|      |      | 副教材 |  |
|      | 中間考査 | 10  |  |
|      |      | 10  |  |
|      |      | 11  |  |
| 期末考査 |      |     |  |
| 3    |      |     |  |

2026年度

| 学年                | 教科  | 科目                      | コース   | 単位 | 担当者 |
|-------------------|---|-------------------------|-------|----|-----|
| 3                 | 地歴  | 地歴選択(日本史)               | 選抜 文系 | 2  | 誉田  |
| 教科書               | 山川出版 詳説日本史探究  |                         |       |    |     |
| 副教材               | 帝国書院 日本史通覧<br>啓隆社 日本史重要語句 Check List  |                         |       |    |     |
| 評価基準              | 観点① 知識・技能<br>歴史事象や歴史用語を時代の流れに即して習得することができるか。  |                         |       |    |     |
|                   | 観点② 思考力・判断力・表現力<br>歴史事象の理由を探究することができるか。   |                         |       |    |     |
|                   | 観点③ 主体的に学習に取り組む態度<br>自ら進んで授業動画や副教材を進めることができるか。<br>自ら進んで課題に取り組んでいるか。   |                         |       |    |     |
| 考查                | 1学期中間・1学期期末・2学期中間・2学期期末・学年末の計5回実施<br>上記考查は全て、観点①50点+観点②50点の100点満点で実施する。   |                         |       |    |     |
| 評価                | 各学期、その時点までの通算を5段階評定で表記する<br>1・2学期: 観点①(中間50+期末50) + 観点②(中間50+期末50) + 観点③ 20<br>3学期: 観点① 学年末50% + 観点② 学年末5% + 観点③ 10       |                         |       |    |     |
| テスト・評価の内訳         | 観点①<br>授業内容を中心に教科書、チェックリスト、プリントから出題   |                         |       |    |     |
|                   | 観点②<br>授業内容を中心に教科書、プリントから出題   |                         |       |    |     |
|                   | 観点③<br>授業末課題と授業動画取り組み状況の提出  |                         |       |    |     |
| 授業のねらい・進め方・注意点    | 世界の中の日本を意識し、他国との関連の中から動く歴史であったり、日本古来の特徴を他国と比較したりしながら展開していく。歴史事象を単なる暗記事項として扱わず、エピソードや流れの中での理由や展望とともに述べながら、歴史を語る生徒の育成に努めたい。 |                         |       |    |     |
| 家庭学習              | 学習内容と進め方  | 日本史重要語句チェックリストを進める。     |       |    |     |
|                   | 学習の目安時間・分量  | 1日30分程度                 |       |    |     |
|                   | 学習状況の確認方法   | 定期考查の得点具合、および提出物        |       |    |     |
|                   | 成績評価との関係  | チェックリストの出来具合は観点1に反映される。 |       |    |     |
| 図書資料の活用等・探究へのつながり | 必要に応じて各自で活用する。  |                         |       |    |     |

授業の計画

| 学期 | 月  | 教材          | 内容   |
|----|----|-------------|--|
| 1  | 4  | 教科書<br>プリント | 中間考查まで：占領期～55年体制<br>GHQの占領政策の様子と、中国での内戦が占領政策の転換に影響したことを学ぶ。 |
|    | 6  | 教科書<br>プリント | 期末考查まで：60年安保～平成<br>高度経済成長の様子と、成長を果たした日本と国際社会との関係を学ぶ。       |
| 2  | 9  | 教科書<br>プリント | 中間考查まで：中世<br>問題演習をベースとしながら、2年次に習った中世の日本史を復習する。             |
|    | 11 | 教科書<br>プリント | 期末考查まで：近世<br>問題演習をベースとしながら、2年次に習った近世の日本史を復習する。             |
|    |    |             |  |

2026年度

| 学年                | 教科   | 科目  | コース | 単位 | 担当者 |
|-------------------|--|---|-----|----|-----|
| 3                 | 地歴公民   | 地歴選択(世界史)   | 選抜  | 2  | 山本  |
| 教科書               | 小説 世界史探究 (山川出版)  |   |     |    |     |
| 副教材               | 詳説世界史図録 (山川出版)   |   |     |    |     |
| 評価基準              | 観点① 知識・技能<br>世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる諸事象について、基本的用語・地名を理解、整理することができる。  |   |     |    |     |
|                   | 観点② 思考力・判断力・表現力<br>課題を把握し解決について構想したり、考察、構想したことを効果的に説明したり、それら表現する力を養う。  |   |     |    |     |
|                   | 観点③ 主体的に学習に取り組む態度<br>日本の歴史に対する理解、他国や他国の文化を尊重することの大切さについて理解し学ぶ姿勢を持つ。  |   |     |    |     |
| 考查                | 1学期中間・1学期期末・2学期中間・2学期期末・学年末の計5回実施<br>上記考查は全て、観点①50点+観点②50点の100点満点で実施する。  |   |     |    |     |
| 評価                | 各学期、その時点までの通算を5段階評定で表記する<br>1・2学期: 観点①(中間50+期末50) + 観点②(中間50+期末50) + 観点③ 20<br>3学期: 観点①学年末50 + 観点②学年末50 + 観点③ 10 |   |     |    |     |
| テスト・評価の内訳         | 観点①<br>用語・人名・地名など学習に必要な知識を問う。  |   |     |    |     |
|                   | 観点②<br>資料等についての正誤判断、年代の推移、論述など思考・判断を問う。  |   |     |    |     |
|                   | 観点③<br>授業に参加し、学ぶ姿勢や課題への取り組み等を評価対象とする。  |   |     |    |     |
| 授業のねらい・進め方・注意点    | 古代から復習すること、問題演習を行うことを中心に授業を進める。  |   |     |    |     |
| 家庭学習              | 学習内容と進め方   | 忘れていた昨年度の授業内容について、備忘録を作成する。                             |     |    |     |
|                   | 学習の目安時間・分量   | 1時間の授業に対し、60分～2時間程度。                                    |     |    |     |
|                   | 学習状況の確認方法  | 模試の受験。また各自のレベルに合わせた問題集、一問一答など「忘れてしまうこと」を前提に問題を解く習慣をつける。 |     |    |     |
|                   | 成績評価との関係   | 探究とは異なり、定期考查は授業内に行う。また探究と合わせて家庭学習を継続することが成績向上につながる。     |     |    |     |
| 図書資料の活用等・探究へのつながり | 授業中に図書室資料を紹介する。  |   |     |    |     |

授業の計画

| 学期 | 月    | 教材                                | 内容   |
|----|------|-----------------------------------|--|
| 1  | 4    | 小説 世界史探究 (山川出版)<br>詳説世界史図録 (山川出版) | ●古代史の総復習<br>教科書第一章   |
|    | 5    | 中間考査                              | ●中央アジアと中国史 (秦漢)<br>●南アジアと東南アジア<br>教科書第二、三章                           |
|    | 6    |                                   | ●西アジアと地中海周辺国家<br>●イスラーム教とヨーロッパ世界<br>教科書第四、五章                         |
| 7  | 期末考査 |                                   |  |
| 2  | 9    | 中間考査                              | ●イスラーム世界と西アジア<br>●イスラーム世界と西アジアヨーロッパ世界の変容<br>教科書第六、七章<br>●東アジアとモンゴル帝国 |
|    | 10   |                                   | ●大交易時代<br>●アジア諸帝国<br>●近世ヨーロッパ<br>教科書九、十、十一章                          |
|    | 11   |                                   | 教科書第十二～十四章   |
|    |      | 期末考査<br>冬期講習                      |  |
| 3  |      |                                   |  |

2026年度

| 学年             | 教科   | 科目  | コース  | 単位 | 担当者 |
|----------------|--|---|------|----|-----|
| 3              | 公民科  | 政治経済  | 選抜文系 | 3  | 芳野  |
| 教科書            | 実教出版『詳述 政治経済』  |   |      |    |     |
| 副教材            | 実教出版『詳述 政治経済 演習ノート』<br>山川出版社『大学入学共通テストへの道 公共、政治・経済 2026-27年用』<br>担当者作成のテキスト  |   |      |    |     |
| 評価基準           | <b>観点① 知識・技能</b><br>○現実社会の諸事情をふまえて、国内・国際経済に関する概念や理論などの理解を深めている<br>○国内・国際経済に関する諸資料から、課題解決のために必要な情報を適切かつ効果的に収集し、読み取る能力を身に付けている                           |   |      |    |     |
|                | <b>観点② 思考力・判断力・表現力</b><br>○市場や財政、金融といった経済活動と福祉の向上との関連について多面的・多角的に考察し、表現している<br>○相互依存関係が深まる国際経済の特質と、国際経済において果たすことが求められる日本の役割について、多面的・多角的に考察、構想し、表現している。 |   |      |    |     |
|                | <b>観点③ 主体的に学習に取り組む態度</b><br>学習に対する自己調整を行いながら、粘り強く知識・技能を獲得したり思考・判断・表現しようとしている   |   |      |    |     |
| 考查             | 1学期中間・1学期期末・2学期中間・2学期期末の計4回実施<br>上記考查は全て、観点①50点＋観点②50点の100点満点で実施する。  |   |      |    |     |
| 評価             | 各学期、その時点までの通算を5段階評定で表記する<br>1・2学期: 観点①(中間50+期末50) + 観点②(中間50+期末50) + 観点③ 20  |   |      |    |     |
| テスト・評価の内訳      | <b>観点①</b> ○経済の基本概念を正確に把握・理解し、それを記述できる<br>○課題解決の糸口となる資料を正確に収集・分析できる  |   |      |    |     |
|                | <b>観点②</b> ○経済活動と福祉の向上との関連について思考し、状況に応じた適切な判断ができる<br>○国際経済において日本が果たすべき役割を考察し、状況に応じた適切な判断ができる   |   |      |    |     |
|                | <b>観点③</b> ○レポート作成を通じて自己の学習状況を振り返り、学習に対する自己調整ができる<br>○他者との交流から、課題解決への意欲・課題解決に向けた見通しをもつことができる   |   |      |    |     |
| 授業のねらい・進め方・注意点 | 授業のねらい：国内・国際経済のしくみを理解し、諸課題の解決に主体的に取り組むための基礎的な能力を身に付ける  |   |      |    |     |
|                | 授業の進め方：基本的に担当者作成のテキストを使用し、ペアワークを多用します  |   |      |    |     |
|                | 注意点：進度がはやく、分量も多いので、高い集中力をもって授業にのぞんでください  |   |      |    |     |
| 家庭学習           | 学習内容と進め方   | 予習よりも復習に力を入れてください。<br>授業で扱ったテキストの内容はその日のうちに見直すよと思います。<br>また、知識定着のために問題集を活用しましょう。                                  |      |    |     |
|                | 学習の目安時間・分量   | 通常時はその日に扱った授業内容を。考查前は問題集を活用しながら自分の納得するまで。<br>社会科は、勉強にかけた時間だけ成績が上がります。ただし、得意不得意の個人差があるので、自分に合った勉強のスタイルを確立してみてください。 |      |    |     |
|                | 学習状況の確認方法  | 原則毎授業の冒頭で、前回の授業の確認を行います。  |      |    |     |
|                | 成績評価との関係   | 上記の通り、社会科は勉強にかけた時間だけ成績が上がります。<br>家庭学習が考查の結果につながると思ってください。   |      |    |     |
| 図書資料の活用等       | ○『朝日中高生新聞』をはじめ、複数新聞社の記事<br>○映画『トゥルーマン・ショー』ほか、授業内で適宜映画や書籍を紹介します   |   |      |    |     |

授業の計画

| 学期  | 月  | 教材         | 内容   |
|---|----|------------|--|
| 1   | 4  | 教科書<br>副教材 | 第1部 現代日本における政治・経済の諸課題<br>第2編 現代日本の経済<br>第1章 経済社会の変容<br>1 経済活動の意義<br>2 経済社会の形成と変容<br>第2章 現代経済のしくみ<br>1 市場機構<br>2 現代の企業<br>3 国民所得と経済成長<br>第3章 現代経済と福祉の向上<br>2 日本の中小企業と農業(中小企業)<br>3 国民の暮らし<br><br>~~~~~中間調査~~~~~ |
|   | 5  |            |  |
|   | 6  |            | 第2章 現代経済のしくみ<br>4 金融のしくみ<br>5 財政のしくみ<br>第3章 現代経済と福祉の向上<br>1 経済の停滞と再生<br>2 日本の中小企業と農業(農業問題)<br><br>~~~~~期末調査~~~~~   |
| 2   | 9  | 教科書<br>副教材 | 第3章 現代経済と福祉の向上<br>4 環境保全と公害防止<br>5 労使関係と労働条件の改善<br>6 社会保障の役割<br><br>第2部 グローバル化する国際社会の諸課題<br>第2章 現代の国際経済<br>1 商品・資本の流れと国際収支<br><br>~~~~~中間調査~~~~~   |
|   | 10 |            |  |
|   | 11 |            | 第2章 現代の国際経済<br>2 国際経済体制の変化<br>3 グローバル化と世界金融<br>4 地域経済統合と新興国の台頭<br>5 地球環境とエネルギー<br>6 経済協力と人間開発の課題<br><br>~~~~~期末調査~~~~~   |
|   | 12 |            |  |
| ※大学入試の受験科目で公共・政治経済を使用する(/予定の)生徒は、担当者に声をかけてください。 |    |            |  |

2026年度

| 学年                | 教科   | 科目   | コース  | 単位 | 担当者   |
|-------------------|--|--|------|----|-------|
| 3                 | 保健体育   | 体育   | 選抜文系 | 2  | 保健体育科 |
| 教科書               |  |  |      |    |       |
| 副教材               |  |  |      |    |       |
| 評価基準              | 観点① 知識・技能  |  |      |    |       |
|                   | 観点② 思考力・判断力・表現力  |  |      |    |       |
|                   | 観点③ 主体的に学習に取り組む態度  |  |      |    |       |
| 考查                | 実技テストを授業内で行う   |  |      |    |       |
| 評価                | 観点①60点、観点②20点、観点③20点=100点満点で評価   |  |      |    |       |
| テスト・評価の内訳         | 観点① 体育館種目、グラウンド種目、ダンスのそれぞれで観点の評価をつける<br>※1学期は新体力テストが加わる  |  |      |    |       |
|                   | 観点② 観察及びレポートにて評価をする<br>体育館種目、グラウンド種目、ダンスのそれぞれで観点の評価をつける  |  |      |    |       |
|                   | 観点③ 観察及びレポートにて評価をする<br>体育館種目、グラウンド種目、ダンスのそれぞれで観点の評価をつける  |  |      |    |       |
| 授業のねらい・進め方・注意点    | 体育の見方・考え方を働かせ、課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続するとともに、自己の状況に応じて体力の向上を図るための資質・能力を育成する。また、授業内での安全確保（感染症対策も含む）にも留意し、生徒の健全な授業環境の確保に努める。 |  |      |    |       |
| 家庭学習              | 学習内容と進め方   | 授業内で実施した内容をもとに、実技動画を調べたうえで各自視聴し、次回授業に生かすようにすること。 |      |    |       |
|                   | 学習の目安時間・分量   | それぞれの技能に応じる。                                     |      |    |       |
|                   | 学習状況の確認方法  | 実技テストでの評価  |      |    |       |
|                   | 成績評価との関係   | 観点別評価の内訳に準じる                                     |      |    |       |
| 図書資料の活用等・探究へのつながり |  |  |      |    |       |

授業の計画

| 学期 | 月                   | 教材 | 内容   |
|----|---------------------|----|--|
| 1  | 4<br>5<br>6<br>7    |    | ○オリエンテーション<br>(新学期・実技指導・内容説明)                        |
|    |                     |    | ○新体力テスト  |
|    |                     |    | 【グラウンド種目】ラグビーフットボール<br>・基本動作の習得～応用、ゲーム<br>※実技テストも行う。 |
|    |                     |    | 【体育館種目】バレーボール<br>・基本動作の習得～応用、ゲーム<br>※実技テストも行う。       |
| 2  | 9<br>10<br>11<br>12 |    | 【グラウンド種目】サッカー<br>・基本動作の習得～応用、ゲーム<br>※実技テストも行う。       |
|    |                     |    | 【体育館種目】バスケットボール<br>・基本動作の習得～応用、ゲーム<br>※実技テストも行う。     |
|    |                     |    | 【ダンス】<br>・創作ダンス、振り付け指導<br>※実技テストも行う。                 |
|    |                     |    |  |
| 3  |                     |    |  |

2026年度

| 学年                | 教科   | 科目   | コース | 単位 | 担当者 |
|-------------------|--|--|-----|----|-----|
| 3                 | 英語   | 論理・表現III   | 選抜  | 4  | 太田  |
| 教科書               | FACT BOOK English Logic and Expression III                                   |  |     |    |     |
| 副教材               | PLUS 英語頻出問題<br>共通テスト10分リスニングプレノート  |  |     |    |     |
| 評価基準              | 観点① 知識・技能<br>文法知識を習得し、授業や課題で取り扱った問題を解くことができる。                                |  |     |    |     |
|                   | 観点② 思考力・判断力・表現力<br>授業で取り扱った問題に関する知識を用いて類題を解くことができる。                          |  |     |    |     |
|                   | 観点③ 主体的に学習に取り組む態度<br>授業時のペアワークや小テスの取り組みで評価する。                                |  |     |    |     |
| 考査                | 1学期中間・1学期期末・2学期中間・2学期期末・学年末の計5回実施<br>上記考査は全て、観点①50点+観点②50点の100点満点で実施する。      |  |     |    |     |
| 評価                | 各学期、その時点までの通算を5段階評定で表記する<br>1・2学期: 観点①(中間50+期末50) + 観点②(中間50+期末50) + 観点③ 20  |  |     |    |     |
| テスト・評価の内訳         | 観点①<br>授業、課題で取り扱った問題   |  |     |    |     |
|                   | 観点②<br>授業で取り扱った問題の類題、授業で扱った知識を用いて解く初見の問題                                     |  |     |    |     |
|                   | 観点③<br>授業内で行う小テストの成績   |  |     |    |     |
| 授業のねらい・進め方・注意点    | +PLUS英語頻出問題を用いてランダムに問われる問題で英文法を復習する<br>共通テスト10分リスニングプレノートを用いて、リスニング能力を向上させる。 |  |     |    |     |
| 家庭学習              | 学習内容と進め方   | 予習は不要。復習を重視すること。授業で文法問題を解き、解説を行う。<br>復習では音読を行いながら、問題を解き、解説を確認することを勧める。 |     |    |     |
|                   | 学習の目安時間・分量   | 1回の授業につき、15～30分程度の復習は取りたい。授業の中で、理解・定着が足りない分野があれば、自分で再度その分野を復習する。       |     |    |     |
|                   | 学習状況の確認方法  | 音読をしながら、既習の問題が解ける。<br>自分でその問題の解説ができる。                                  |     |    |     |
|                   | 成績評価との関係   | 授業で扱った問題が観点①に出るので、観点①には直結する。<br>観点②観点③は授業で扱った類題が出るので、自分で解説ができるなら解ける。   |     |    |     |
| 図書資料の活用等・探究へのつながり | 辞書の活用が可能。  |  |     |    |     |

授業の計画

| 学期 | 月  | 教材                 | 内容   |
|----|----|--------------------|--|
| 1  | 4  | PLUS<br>リスニングプレノート | Sect.1、Sect.2、Sect.3、Sect.4<br>6回分         |
|    | 5  | 中間考査               |  |
|    | 6  | PLUS<br>リスニングプレノート | Sect.5、Sect.6、Sect.7、Sect.8<br>6回分         |
|    | 7  | 期末考査               |  |
| 2  | 9  | PLUS<br>リスニングプレノート | Sect.9、Sect.10、Sect.11、Sect.12<br>6回分      |
|    | 10 | 中間考査               |  |
|    | 11 | PLUS<br>リスニングプレノート | Sect.13、Sect.14、Sect.15、<br>Sect.16<br>6回分 |
|    | 12 | 期末考査               |  |
| 3  |    |                    |  |

2026年度

| 学年                | 教科   | 科目                             | コース  | 単位 | 担当者 |
|-------------------|--|--------------------------------|------|----|-----|
|                   | 外国語  | 英語演習I                          | 選抜文系 | 2  | 山浦  |
| 教科書               | Clues to Reading 英文解釈の徹底演習 Standard (数研出版)                         |                                |      |    |     |
| 副教材               | ターゲット単語帳   |                                |      |    |     |
| 評価基準              | 観点① 知識・技能<br>*テキストの英文で、構文解釈、和訳ができる。<br>*英単語の意味を日本語でかける。            |                                |      |    |     |
|                   | 観点② 思考力・判断力・表現力<br>*初見の英文で、構文解釈、和訳ができる。<br>*英単語を埋める4択問題をとく。        |                                |      |    |     |
|                   | 観点③ 主体的に学習に取り組む態度<br>*授業内外で課す課題に取り組んでいる。(この項目は出来不出来ではなく、取り組みを評価する) |                                |      |    |     |
| 考査                | 定期考査はなし。   |                                |      |    |     |
| 評価                | 授業内の取り組みで評価。   |                                |      |    |     |
| テスト・評価の内訳         | 観点① テキストの英文・構文解釈・和訳・単語テスト  |                                |      |    |     |
|                   | 観点② 所見の英文で構文解釈・和訳  |                                |      |    |     |
|                   | 観点③ 授業内での取り組み姿勢や単語テスト  |                                |      |    |     |
| 授業のねらい・進め方・注意点    | 演習を通しより多くのアウトプットを生み出すことで、読解方法、英文知識、語彙を習得する。                        |                                |      |    |     |
| 家庭学習              | 学習内容と進め方   | 単語帳を活用し、毎日単語を取り組む習慣をつける。       |      |    |     |
|                   | 学習の目安時間・分量   | 15分程度                          |      |    |     |
|                   | 学習状況の確認方法  | わからない単語に付箋を貼り、わかる単語の付箋をはがしていく。 |      |    |     |
|                   | 成績評価との関係   | 単語テストを通し、取り組みを判断する。            |      |    |     |
| 図書資料の活用等・探究へのつながり | 特になし   |                                |      |    |     |

授業の計画

| 学期 | 月 | 教材  | 内容 |
|----|---|---|----|
| 1  |   | Clues to Reading 英文解釈の徹底演習 Standard (数研出版)<br>①～⑦<br>ターゲット単語帳 |    |
| 2  |   | Clues to Reading 英文解釈の徹底演習 Standard (数研出版)<br>⑧～⑮<br>ターゲット単語帳 |    |
| 3  |   |   |    |

2026年度

| 学年                | 教科   | 科目  | コース  | 単位 | 担当者 |
|-------------------|--|---|------|----|-----|
| 3                 | 英語   | ケーション英語III  | 選抜進学 | 4  | 石井  |
| 教科書               | FLEXIII(増進堂)   |   |      |    |     |
| 副教材               | 英語長文読解 Praxis Level3(Z会)<br>ターゲット1900(DFTと連動し、考査範囲に含める)  |   |      |    |     |
| 評価基準              | 観点① 知識・技能<br>テキストの英文・設問に対応できるだけの語彙力、英文解釈力が身についている<br>設問の解法を、本文設問を通じてマスターしている   |   |      |    |     |
|                   | 観点② 思考力・判断力・表現力<br>テキストに基づく別形式出題にも対応できる<br>初見英文でも、同じ読み方、解き方で対応できる  |   |      |    |     |
|                   | 観点③ 主体的に学習に取り組む態度<br>課題・小テストなどに手を抜くことなく取り組んでいる   |   |      |    |     |
| 考査                | 1学期中間・1学期期末・2学期中間・2学期期末・学年末の計5回実施<br>上記考査は全て、観点①50点+観点②50点の100点満点で実施する。  |   |      |    |     |
| 評価                | 各学期、その時点までの通算を5段階評定で表記する<br>1・2学期: 観点①(中間50+期末50) + 観点②(中間50+期末50) + 観点③ 20<br>3学期: 観点①学年末50 + 観点②学年末50 + 観点③ 10                   |   |      |    |     |
| テスト・評価の内訳         | 観点①<br>授業内で扱ったテキストをベースとした問題  |   |      |    |     |
|                   | 観点②<br>授業内で扱った事項の応用。所見問題中心   |   |      |    |     |
|                   | 観点③<br>課題、小テスト、音読テスト   |   |      |    |     |
| 授業のねらい・進め方・注意点    | テキストの精読及び問題に対する対応を中心に進める。音読・ペアワークも行う。<br>サポートノートの提出を課す(解答は配布するため、予習として用いてもよい)<br>適宜小テスト・課題を課す<br>基本は予習を前提とした授業を行う。音読を含めた復習を欠かさないこと |   |      |    |     |
| 家庭学習              | 学習内容と進め方   | 【内容】重要表現の復習、精読、音読、サポートノート他<br>【進め方】授業で出てきた表現を覚えた上で、文構造を意識しながら改めて訳す。繰り返し音読し定着を図る |      |    |     |
|                   | 学習の目安時間・分量   | 【目安時間】30分<br>【目安分量】その日に習った範囲。少なくとも段落単位で行う                                       |      |    |     |
|                   | 学習状況の確認方法  | 学習した文章の意味(内容の展開)がわかるか、各文の構造や重要構文が理解できているか。音読しながら構造を理解し、意味が分かるという状態              |      |    |     |
|                   | 成績評価との関係   | 課題や小テストは観点③に加味する  |      |    |     |
| 図書資料の活用等・探究へのつながり |  |   |      |    |     |

授業の計画

| 学期 | 月  | 教材                                   | 内容                |
|----|----|--------------------------------------|-------------------|
| 1  | 4  | プラクシス Level3                         | Stage1-1～Stage1-3 |
|    | 5  |                                      | Stage1-4～Stage1-6 |
|    | 6  | 中間考査                                 | Stage1-7～Stage2-2 |
|    | 7  | 期末考査                                 | Stage2-3～Stage2-5 |
| 2  | 9  | プラクシス Level3                         | Stage2-6～Stage3-2 |
|    | 10 |                                      | Stage3-3～Stage4-5 |
|    |    | 中間考査<br><br>大学入試問題の過去問演習<br><br>期末考査 | Stage4-6～Stage4-7 |
| 3  |    |                                      |                   |

## 3年次 総合的な探究の時間 シラバス

|          |   |
|----------|---|
| 活動の指針    | 3年次では、以下を重視して実施。<br>2年次からの個人探究を引き続き行い、深め論文にし、発表する。<br>進路探究を通じて自分を理解する。<br>一学期 志望理由書の作成、個人探究の継続<br>二学期① 論文にしたものを踏まえスライドにする<br>二学期② 全員発表する                              |
| 教材<br>教具 | <input type="checkbox"/> iPad (Classroomの連絡が確認できる端末)<br><input type="checkbox"/> マイナビテキスト「探究の進め方」<br><input type="checkbox"/> その他必要に応じて書籍など資料を紹介、配布する。                |
| 一学期      | 志望理由書を作成し、進路探究をする。個人探究を継続する<br>授業の流れ(概要)<br>1. 志望先学校について深く知る<br>2. 志望理由書の書き方を学ぶ<br>3. 志望理由書を書き、添削を受ける<br>4. 2年3月の発表をさらに発展させるよう個人探究を継続する<br>5. 論文の書き方を学ぶ<br>6. 論文を作成する |
| 夏休み      | スライドの作成   |
| 二学期      | 前半 スライドを作成し、周囲からアドバイスを受ける<br>後半 スライドを用いて発表する<br>授業の流れ(概要)<br>1. 夏休みの計画したようにスライドを作成する<br>2. スライドをも用いて発表する<br>3. 発表について評価を受け、改善する<br>4. 他学年に代表者が発表する                    |

| 注意 |  |
|----|--|
| 基本 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 中間発表での反省を生かし、個人探究のテーマ・内容を深める</li> <li>・ 探究の目的を理解した上で毎回の活動を行う。</li> <li>・ 大学進学後に必要となる論文作成やプレゼンを経験する</li> </ul> |
|    | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ ルーブリックを意識した行動を心がける。</li> <li>・ 調べ学習、考察、体験から得られた内容、アウトプットを意識した成果物を作成する。</li> </ul>                             |

| グループ学習における「協働的に学ぶ」とは？   |   |
|---|---|
| 個人での探究の機会が増えるが、発表などを通じた「協働的に学ぶ」機会があるので、その際には①～⑦を実践できるように心がける。<br>①クラス内で、複数名のグループに分かれて行動する。<br>②協働的に学ぶ際の注意事項や評価指標を全員で確認しておく。<br>③話し手は〇〇分で意見主張→聞き手は、話し手の意見に乗って+αのアイデアを出す。<br>④グループ内で③を時間の許す限り繰り返す。<br>⑤会話が倦んで、途切れてしまったときに、はじめて端末や図書で予備知識を補う。<br>⑥予備知識を補う際は、「誰が何をどの程度調べるのか」を計画してから実行する。<br>⑦予備知識を仕入れた上で、また③～⑥を繰り返していく。 |   |
| 注意事項  | 評価指標  |
| 個々の発言量・機会を均等にする。<br>人の意見に乗ってばかり...はやめる。<br>人に指示してやらせてばかり...はやめる。<br>会話の流れを記録し、遡れるようにする。   | 協働的に学ぶ意義は「物事を多面的に視る」という点である。様々な側面からの情報や異論などを集め、整理できれば、よいチームだと評価される。 |